

教えて! COPD

～ガンだけじゃない! タバコで起こるコワイ肺の病気～

COPDとは?

慢性閉塞性肺疾患のことで、主にタバコの煙など、有害物質が含まれる空気を長期間にわたって吸い込むことで発症し、肺の機能に障害が生じる進行性の疾患です。

2019年

日時

2月11日【月・祝】

入場無料
定員200名

午後2時00分～午後4時00分(開場 午後1時30分)

場所

バロー文化ホール 小ホール(多治見市文化会館)

〒507-0039 多治見市十九田町2-8

TEL: 0572-23-2600

Program

開会 14:00

挨拶: 小林 博(岐阜県医師会 会長)

総合司会: 佐竹 真一(岐阜県医師会 常務理事)

第1部

14:05～14:55

「岐阜県におけるCOPDの現状とCOPDストップ作戦」

講師: 大林 浩幸(東濃中央クリニック 院長)



「イリュージョンショー」

イリュージョニスト Toshiki

(マジックキャスルオフィシャルメンバー・2007年マジック世界大会優勝)



第2部 特別講演

15:00～15:55

座長: 大林 浩幸(岐阜県COPD対策協議会 委員長)

「タバコがなくなれば、日本から消える病気

COPD-肺年齢をチェックして禁煙へ-」

TVCMでご存じの
禁煙先生

講師: 津田 徹(霧ヶ丘つだ病院 理事長・院長)



閉会 16:00

主催: 岐阜県医師会・岐阜県COPD対策協議会
後援: GOLD日本委員会、多治見市医師会、土岐医師会、恵那医師会、
岐阜県歯科医師会、岐阜県薬剤師会、東濃薬剤師会、恵中薬剤師会

岐阜県医師会「COPD県民公開講座」係

TEL: 058-274-1111

お問い合わせ・お申込みは裏面をご覧ください。

◇講演◇

岐阜県におけるCOPDの現状とCOPDストップ作戦

東濃中央クリニック 院長 大林 浩幸

“COPD”と聞くと、何かめずらしい難しい病気のように思われますが、実はとても身近で多くの患者さんがいる呼吸器系疾患です。Chronic Obstructive Pulmonary Diseaseの頭文字を取ったもので、日本語では“慢性閉塞性肺疾患”となります。

皆さんは、肺気腫とか慢性気管支炎という、病名を聞いたことがあると思いますが、COPDはこれらを総称したもので、もっと分かりやすく言えば、日常的に長期間タバコ煙に暴露し続けたことで起きる“タバコ肺”のことです。

本日の私の講演では、次の3点を主にお話します。1) タバコ煙が原因で起きるCOPDを分かりやすく解説し、自分が吸うタバコ煙(主流煙)のみならず、他人の吸うタバコ(副流煙)も危険であることをお話します。2) COPDはとても身近な病気であるにもかかわらず、軽いうちは気付かれにくく、「せきやたんはタバコを吸うから当たり前」とか「もう高齢だから」など自分なりの理由を付けて見過ごし喫煙を続けることで、じわじわと確実に重くなり、もう元の肺には戻らなくなる病気であることを、岐阜県の現状と合わせて解説します。そして、3) COPDの早期診断と早期治療をスローガンに、岐阜県において岐阜県医師会主導で9年前から活動している、『COPDストップ作戦』の概要についてお話します。『COPDストップ作戦』とは、重症化しないように適切な治療を早期から導入し(Care)、COPDの原因であるタバコ煙を排除し(Omit)、大切な子供や家族、職場の同僚などをタバコ煙暴露から防ぐ(Prevent)、そのために、呼吸機能検査などを積極的に行い、COPDを早期に見つけ出す(Discovery)の4つの英単語の頭文字を組み合わせた標語で、県民の皆様方と一緒に、COPDの発症と重症化をストップしたい思いが詰まった活動です。短い時間ですが、これまでの活動内容とその成果をご紹介します。

Profile

1990年 名古屋大学医学部卒
名城病院、一宮市民病院、名大病院を経て、
1998年 昭和病院(現：東濃厚生病院)
2005年 同アレルギー呼吸器科部長、名古屋大学医学部客員研究員
2011年11月 東濃中央クリニック開業
現在、藤田医科大学医学部 客員教授、島根大学呼吸器・臨床腫瘍学 臨床教授、昭和大学医学部講師、岐阜大学医学部講師(非常勤)を兼任

<所属学会>

【国内】

日本呼吸器学会(指導医、専門医、COPDガイドライン査読委員)、日本アレルギー学会(専門医、喘息ガイドラインJGL2009、JGL2012、JGL2015、JGL2018作成委員)、日本消化器病学会(専門医)、日本消化器内視鏡学会(専門医)、日本禁煙学会(専門医)、日本骨粗鬆症学会(専門医)

【海外】

米国胸部疾患学会(専門医、Fellow of Chest Physician)、米国呼吸器学会(ATS)、欧州呼吸器学会(ERS)(ゴールド会員)等

◇特別講演◇

タバコがなくなれば、日本から消える病気COPD ー肺年齢をチェックして禁煙へー

医療法人社団恵友会理事長・霧ヶ丘つだ病院院長 津田 徹

COPD (Chronic Obstructive Pulmonary Disease:慢性閉塞性肺疾患) はタバコが世の中からなくなれば、ほぼなくなる病気です。

診断されるのは65歳頃。若い頃から吸ったタバコが原因で、咳や痰が長く続く、いつの間にか階段を登らない生活となります。息切れなどの症状が出てくるのは高齢になってからですし、タバコによってジワジワと肺が壊れていき、気づいた時には進行しています。

早期発見には肺機能検査が必須です。「タバコを吸っている」、あるいは「吸っていた」方は肺年齢のチェックをしてみましょう。肺機能検査はまだまだ普及が足りません。

禁煙外来のCMで私が小学校の教室で保護者と子供さんに話しているように、40歳台までにタバコをやめると、COPD、がん、動脈硬化といったタバコによる病気にかかりにくくなり、非喫煙者とほぼ同じ余命となります。しかし、ニコチン依存症から抜け出せず、ズルズルとタバコを吸ってしまいます。

COPDでは、まず禁煙、次に治療は肺に直接届く「吸入薬」が上手に使えることが重要です。平地を歩いても同じ年齢の人と同じスピードで歩けない、階段を最近使ったことがない方は呼吸のリハビリテーションが必要です。進行してくると、歩行時に酸素が下がり、在宅酸素療法が必要になりますが、息切れをとるためには酸素だけでは不十分です。体重が落ち、筋肉が減って、呼吸に使う筋肉、歩くための大腿の筋肉がやせてきますので、栄養をよくとり、呼吸リハビリテーションを行うことが大事です。抑うつ状態を合併することが多いので、日常生活を楽しくする工夫も必要です。

タバコによる病気で困っている方々が多い反面、日本ではたばこ事業法によりタバコを保護している立場、たばこ税にも依存しているため、タバコ対策が進んでこなかった状況があります。WHO(世界保健機構)の国際条約であるFCTC(タバコ枠組み条約)を日本は批准しており、タバコに対する対策を取らなければいけないのですが、健康増進法(受動喫煙防止)の改正も十分ではありません。来年の東京オリンピックまでに、社会的なニコチン依存症からも脱却するように頑張りましょう。

Profile

1982年	久留米大学医学部卒業、産業医科大学第二内科研修医
1988年	産業医科大学大学院修了 呼吸器科助手
1990年	カリフォルニア大学サンフランシスコ校心臓血管研究所学生
1993年	産業医科大学産業生態科学研究所 作業病態学 講師
1996年	同上 呼吸病態生理学 助教授に転任
1998年	医療法人社団恵友会 津田内科病院
2006年	医療法人社団恵友会 理事長
2009年	久留米大学医学部 臨床教授 兼任

<所属学会ほか>

日本呼吸器学会 COPD ガイドライン第4～5版作成委員、禁煙推進委員
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 理事
日本睡眠学会代議員 北九州地域医療構想調整会議委員